

## 寄稿3

# 中国語特許明細書読解についての所感

ナノ物理 林 靖  
自然資源 石村 恵美子

山口大学 北川 創  
情報処理 松平 英

自然資源 松本 隆彦

### 抄録

本稿は7年間にわたって、著者ら特許庁の中国語の同好者と一緒に勉強した感想を寄稿したものです。今後、同じ勉強をされる方々の参考となるよう、中国語の勉強をする際に直面する、個人差という問題、特許明細書を読解する際の種々の問題を解決した経験について述べたものです。本誌掲載記事は、個人の資格で執筆されたものであり、特許庁技術懇話会、特許庁、または経済産業省の見解を表明するものではありません。

## はじめに：リーダーからの一言

平成16年5月任期付き審査官として特許庁に入庁して以来9年11月経ち、3月末に任期満了となります。中国語は得意ですので、入庁4年目のとき、研修でお世話になった指導教官に誘われて、中国語の勉強会を立ち上げ、そのリーダーに就き、以来7年間、ほぼ絶え間なく続けてきました。現役のメンバーは10人で、卒業したメンバーを入れて20名前後の規模となりました。“卒業”と言っても、特段の儀式はなく、海外留学、庁外への出向、退職などがこれに当たります。“卒業”したメンバーの方々は、ロンドン、ニューヨークで勉強され、大学の准教授、特許事務所の経営者など各自の職場で活躍されています。この度、私の“卒業”を迎えて、7年間にわたる勉強会の活動の経験についてまとめました。

## 1. 中国語勉強塾の立ち上げ

特許庁の審査官がメンバーですから、勉強会の目的の一つは、やはり中国語で特許明細書を読解することです。中国語が盛んに勉強されるようになったのはここ数年前のことですので、特許庁において中国語を勉強した審査官のうち、外国語学校で2、3年勉強をした人が大半を占めています。このような中級クラスの審査官が特許明細書の読解の方法を習得することが、特許庁において中国語文献を使った審査を普及させるためには不可欠です。と言っても、今まで全く中国語に触れていない人に明細書の朗読をして

もらうことは無理な話です。中国語特許明細書の勉強に先立って、中国語レベルが違う問題、発音記号「拼音」の問題、メンバー達の専門分野が異なる問題をクリアしなければなりません。

### 1.1 中国語のレベルの違いに関する問題

中国語の勉強を始めて、まず直面したのは、メンバーの間に中国語の経験年数に差が存在する問題、つまり各個人の中国語のレベルに違いが存在するという問題でした。経験年数に差が存在すると、できるメンバーは勉強しても収穫がなく、できないメンバーはみんなについていけない現象が起こります。結果的に勉強のモチベーションが上がらず、欠席者が増えて最終的に続けられない人も出てきてしまいます。実際、勉強会ができた当時、メンバーたちの中国語経験年数の差が著しく、まったく経験のない人もいれば10年も経験した人もいました。この問題は経験年数によって、メンバーを複数のクラスに分けることでおおよそ解決できました。勉強会ができた当時では初級と上級クラスに分かれていましたが、現在では上級、中級、初級と初心者クラスに分かれています。

クラス分けしたときに発見した面白い現象についてお話しします。経験年数によってクラスを分けても、各クラス内部ではどうしてもレベルの差が残ってしまいます。この場合、経験年数の少ないメンバーに勉強内容を予習させ、いわゆる勉強内容をカンニングさせると、そのメンバーは数年も経験の多い人と一緒に勉強しても、ついていけないと

は感じなくなるそうです。

## 1.2 発音記号「拼音」の問題

中国語の発音記号である「拼音」は、中国語の発音を覚えていない初心者にとって不可欠なものです。特許明細書にはこのような発音記号はありません。特許明細書は読解できれば、発音なんかできなくても良いではないかと思いがちですが、発声を伴わない語学の勉強は決して良いものではありません。文書を読むとき、人は目と耳、盲人の場合手から文字情報を読み取りますが、音声からの情報は脳に受け入れやすいと考えられています。特に初心者の場合、外国語の文献を読むとき、声を出して朗読をしていなくても、心の中でつぶやいていることが多いのです。従って、明細書の読解をする際、多少発音がおかしくても発音しながら読む方がよく、発音をしないまま勉強を進めることは決してお勧めできません。

ここで生じる問題が、特許明細書には発音記号が書かれていないということです。上級クラスのメンバーはそのまま読めるので、理解ができなかった部分だけ指導すれば良いのですが、中級クラスの場合はまず「拼音」なしでも読めるようにするところから始めなくてはなりません。その場合の勉強方法として、左のページに中国語漢字だけが書かれていて、右のページに「拼音」付きのものが書かれている教材を探してきて、どうしても読めない漢字だけに「拼音」を振るようにして読んでもらうと、比較的短期間で「拼音」なしで読めるようになりました。その時に使っていた教材は中国書店出版の「中国現代文学」で、なかでももっとも印象に残った文章は宗璞著の「西湖漫筆」<sup>1)</sup>でした。とても綺麗に書かれた文章なので、中国文学にご興味がある方にも是非ご一読をお勧めします。

その時に使ったもう一つの方法はまず、メンバーに身近な物事、例えば自分の家の位置とその周辺にあるものを話してもらって、その内容をもとに中国語の教材を作成します。その教材の内容を暗記し、「拼音」がない状態で書いてもらいます。書いた文書を朗読してもらって、良く知っている内容なので比較的簡単に読めるようになります。このような作業を繰り返しているうちに、少しずつ「拼音」がなくても文章を読めるようになりました。

ところで、日本語と違って、中国語で漢字の読み方は、原則的にそれぞれ1通りの読み方しかなく、漢字それぞれについて、この一つの読み方さえ覚えてしまえば、「拼音」なしでも読めるのですが、それでも、「拼音」なしでも読めるようになるには長い時間が必要であり、それからようやく特許明細書の読解に入るとということではいくら時間があっても足りません。そこで考えたのは特許明細書の中国語文章に「拼音」を付した教材を作ることでした。まず、「拼音」なしの資料を作成します。その後、インターネッ

ト上のフリーソフトに先ほどの文書を入力して変換すれば「拼音」に変換されます。変換された「拼音」ともとの文章と合わせ、編集して資料を作成しました。その具体例を後述の例文3と例文4に示します。このように、メンバーにピンインなしで読む作業と特許明細書に「拼音」をつける作業を同時進行することで、中国語勉強経験が2、3年程度のメンバーでも明細書読解の勉強を進めることができるようになりました。

## 1.3 専門分野が異なる問題

中国語で特許文献を読解する勉強に辿り着くまでに直面した最後の問題はメンバーの専門分野の違いです。メンバーは自然資源、事務機器、応用光学、ナノ物理、情報処理など色々な分野を専門とします。異なる専門分野の特許文献の用語は当然違いますし、文章の構成も異なります。一番大きな問題は、日本語でさえ理解できない技術内容の文章を中国語で理解しようとするということです。つまり、特許明細書を中国語で勉強するために、まず、その特許明細書の内容は全てのメンバーが理解できるものでなければなりません。最初の作業は教材の選定です。このような明細書として、園芸 (A01G)、ペット、釣り用ルアー (A01K) のように、誰でも一度は触れたことのある内容としました。具体的に、釣り用のルアー、植木鉢、犬を牽引するリード、ペット用小屋、ペットフードなどの明細書を勉強の対象としました。また、日本の特許出願を基礎とした中国語文献があれば、優先して教材として選定しました。このように、最も簡単な内容の文献を選択することによって、メンバーの専門分野が異なる問題を解決しました。

さて、前置きが少し長くなりましたが、次には本題である特許明細書の読解についてお話しをします。

## 2. 上級クラスにおける中国語の特許明細書の読解

上級クラスのメンバーは、大学時代から趣味で中国語の勉強を始めて、勉強会がスタートした時点ではかなり流暢に中国語を話せるようになっていましたので、上級クラスの勉強は、一方が教えて一方が学ぶと言うよりも、中国語の特許文献を読んで、いろいろと問題点を探し出して、互いの意見を述べて議論することが多かったです。勉強の作業は極めてシンプルで、明細書を朗読してから翻訳し、不明な点について議論を交わしました。

2012年3月からスタートして、2013年7月にメンバーが出向で特許庁を離れるまで (写真1)、約1年4ヶ月の間、多数の中国語の特許明細書について精読しました。精読というのは、一字一句言葉を追って明細書を読解することです。その目的は単に明細書に書いてある内容を理解するだけではなく、どの文法構成が明細書のどの部分において頻

● 繁に出現するかについても詳しく調べることであります。これは、後述の中級クラスの明細書読解において極めて重要な作業です。ここで、中国語明細書を読解中に気づいたいくつかの注意すべき点について話します。なお、本記事に用いられた中国語例文は、公開公報の内容を参照して、中国語教材として作成したものです。

## 2.1 同じ単語(中国語の簡体字は若干違うことがある)でも日本語と中国語は異なる意味を持つケース

● 教科書にも良くあることは「手紙」と言う単語、日本語では「レター」と言う意味ですが、中国語では「トイレットペーパー」となります。動詞として「勉強」することは、日本語では学問や芸芸などを学ぶこと、物事に精を出すこと、経験を積むことを意味しますが、中国語の「勉強」は「無理をする」ことを意味します。「飽」きることは日本語では多すぎたり、同じことが長く続いたりして、いやになることを意味しますが、中国語の「飽」は「お腹がいっぱい」となります。形容詞の例として、「清楚」という言葉の日本語の意味は飾りけがなく、清らかなことを意味しますが、中国語の「清楚」は「明確」、「わかりやすい」などを意味します。

## 2.2 同じ単語でも日本語と中国語の意味が微妙に異なるケース

● 「手紙」の意味が「レター」と「トイレットペーパー」のような、全く意味が異なる単語は何回か出会えば区別することができるようになりますが、問題となるのは単語が中国語と日本語は同じ意味も持つが、微妙に異なる意味を持つ場合であります。例えば、日本語において「走」るは「ランニング」を意味しますが、中国語では「ウォーキング」です。両者にはかかどが同時に地面を離れるか否かの差しかありません。それから「掃除」という言葉は、日本語では掃除機を使った簡単な清掃の意味も含まれますが、中国語の「扫除」は、いすを裏返して机の上へのせ、部屋の角に集めてから清掃するような一大事となります。このような言葉の微妙な差を識別できるようになることは、中国語の勉強の難しさの一つと言えるかもしれません。ちなみに、日本語で言う「掃除」のような清掃は、中国では「打扫卫生(打扫衛生の簡体字)」と言います。

## 2.3 文章構成が複雑なケース

● 特許明細書の文章は、中国語も日本語と同様、とにかく長いのが特徴です。一段落のなかに句点「。」が少なく、読点がたくさんあることが一般的です。一段落の最後に句点しかない場合も少なくありません。文の中に読点「、」がた

くさんある場合、文と文の関係が複雑になります。前の文と後の文が修飾関係にあるのか、因果関係にあるのか、それとも単なる時間的前後の関係なのかについて判断が必要となってきます。修飾関係の場合、修飾の主体は何かについても注意を払う必要があります。例えば、英語の場合、読点で文を区切る場合、次のような分詞構文を用いる場合があります。

The thunderstorm hit the power station last night, causing blackout till 8 am.

(昨夜雷を伴う暴風雨が変電所を襲ったため、朝8時まで停電した)

しかし、中国語には分詞のような文の修飾関係を表す便利なものがないため、句点前後の文の関係を見分けることが難しい場合が少なくありません。ここで、いくつか例を挙げます。

### 2.3.1 複数の文(分句)が異なる条件のもとで選択的な関係にあるケース

「与现有技术相比，本发明通过采用上部容器和下部容器叠合的结构，使得在多水时，水通过上部容器的土壤渗透经疏水孔流入下部容器内，而在缺水时，下部容器内的水通过在毛细现象作用下的纤维被逐步补充到上部容器内，使上部容器内的土壤保持一定的湿度」(例文1)。

主文は「本发明通过采用上部容器和下部容器叠合的结构」であります。それ以外の文は異なる条件のもとで主語の本発明(植木栽培容器)の状態を表します。このような時、異なる条件を区切る役割を果たす文字(上記の場合は「時」)に注目すべきです。つまり、水が豊富な時(在多水時)と水不足の時(在缺水时)に分けて文を理解するとわかりやすいと思います。

上記例文1を日本語に翻訳すると次のようになります。「従来技術と比較して、本発明は上部容器と下部容器とを重ねる構造を採用することにより、水が豊富な時、水は上部容器的の土壤に浸透して、疎水孔から下部容器内に流入し、水不足の時では、下部容器内の水はサイフォン現象により吸水繊維を通じて徐々に上部容器内に補給され、上部容器内の土壤を一定の湿度を保つようになっている」。

### 2.3.2 複数の文(復句)で物の形状を表し、その特徴を記述するケース

「实现本发明的排灌水管的具体结构是：本排灌水管包括管体<sub>1</sub>和连接部，管体<sub>2</sub>的两端分设置有入水口和排水口，其中所述管体<sub>3</sub>内沿轴向设有截面为V形水道隔离板，该V形水道隔离板的两个上部开口端分别与管体<sub>4</sub>的内壁连接，其底部也与管体<sub>5</sub>的内壁连接，在V形水道隔离板的上部开口端附近和上部开口端与底部之间的管体<sub>6</sub>上分别设有排灌水孔」(例文2)。

例文2において、「注排水管(排灌水管)」が発明の主体

ですが、発明の特徴部分の「管体」は6回も繰り返されており、発明における「管体」という部品の重要性が分かります(例文2の「管体」に添えた番号1~6は、筆者が付したものです)。そのうち、管体<sub>2</sub>は管体<sub>1</sub>を修飾する語ですが、管体<sub>3</sub>~管体<sub>6</sub>は直接管体<sub>2</sub>を修飾する語です。このような文書において、重複出現する単語に注目して文の修飾関係を理解することが必要です。

上記例文2を日本語に翻訳すると次のようになります。

「本発明の注排水管を実現するための具体的な構成は、該注排水管は管体と接続部を含み、管体の両端それぞれに取水口と排水口が設けており、前記管体内縦方向に断面V字型の水路分離板が配設されており、該V字型の水路分離板の二つの上部開口端はそれぞれ管体の内壁に接続され、その底部も管体の内壁に接続され、V字型水路分離板の上部開口端の近傍と上部開口端と底部の間の管体上にそれぞれ注排水孔が設けている」。

ついでですが、例文2を機械翻訳にかけて見たら、次のように修飾関係が乱れた文書になりました。

「本発明は、灌漑水の具体的な構造は：灌漑水は、チューブ本体との接続部を備え、筒体の両端に入口と出口が設けられており、前記管状体の軸方向の断面がV字状水路である有するセパレータ、管接続の2つの内壁のV字状の分離板水路上部開放端、管の内壁の底部が接続され、プレート及び上部開放端の上部開放端との底部を分離するV字状水路管状体の列の間に灌注孔が設けられている」。

中国語特許文献の機械翻訳が上手く出来ないことの原因として、文章構成の複雑さと入り組んだ修飾が関係していると考えられます。機械にとって判断が難しい文章の修飾関係は、人間にとっても難しいはずですが、修飾関係を正しく判断するには、後述の中国語の文法を理解した上で様々なケースにあたって各単語の働きを考え構文を把握し、必要であれば有識者に聞くなど経験を積むことが大切だと思います。

## 2.4 翻訳文の単語の選択について

日本語は便利な言語です。どの国の言葉も、片仮名に直せばすぐ日本語にすることが出来ます。そして、カタカナ語を使うかそれとも日本語本来の単語を使うかによって翻訳文の意味が微妙に異なる時があります。中国語の特許明細書を日本語に翻訳する場合、用語の選択は次のように考えています。

特許審査において、出願人の手続補正に対して、「新規事項の追加」(特許法第17条の2第3項)の拒絶理由を通知することがあります。つまり、当初明細書の範囲を超えて補正がなされた場合です。このようなことは明細書等がもともと日本語で記載された出願よりも外国語から翻訳した出願に多く見られるように思いますが、これは翻訳をする



写真1 特許庁高橋是清像の前にて(2013年6月)、左から北川創、林靖



写真2 特許庁一階ホールにて(2013年11月)  
左から松平英、石村恵美子、林靖、松本隆彦

際、選択した単語が外国語原文の単語と少し異なる意味を持つためというケースがあります。出願する特許明細書はもちろんのこと、拒絶理由に引用される文献の翻訳にも意味が同じ単語を選ぶことが重要です。中国語特許明細書を日本語に翻訳する場合、漢字を使う言語同士の翻訳ですので、漢字の単語があるときは、西洋言語からの外来語はできるだけ避けた方がよいと思います。

上級クラスにおける中国語特許明細書についての勉強は、中級以下のクラス、つまり特許庁で最も人数の多い中国語の経験が1~3年の審査官の中国語明細書勉強にとってパイオニア的な作用を果たしているものと考えています。上級クラスの勉強で発見した問題とその解決方法、明細書各部分において頻繁に用いられる文法の構成を系統的に整理することができたからこそ、今まで一度も中国語明細書を読解したことのない中級クラスのメンバーにも勉強を進められたと言えます。

### 3. 中級クラスにおける中国語の特許明細書の読解

中級クラスは中国語経験が1～3年の審査官を対象にしています。特許庁で最も人数が多い集団（所謂中国語団塊世代）です。この人達の中国語読解能力が向上することはすなわち特許庁の中国語文献を含む特許審査の質が向上することに直結すると言えます。このクラスのメンバー（写真2）は、「拼音」なしでの朗読、会話、文章の読解がある程度できますが、まだ完全ではありません。しかしながら、特許審査官は理系出身で論理的能力に長け、日々文章（拒絶理由通知書を書くなど）を扱う仕事をしているので、文章力はかなり鍛えられています。多くの審査官は外国語、特に英語が堪能であり、外国語の文章を文法から読解することにも慣れてしています。これに加えて、特許文献は【権利要求（請求の範囲）】、【技术领域（技術分野）】、【背景技術（背景技術）】など決められた部分で構成されており、各部分において同じ文法の構成を繰り返すことが少なくありません。従って、特許文献の読解においては初心者である中級クラスに対して、中国語文法<sup>2)3)</sup>と共に勉強するやり方にしました。次にその勉強の一部を紹介します。

中国語の文成分として、「主語」、「谓语」、「宾语」、「定语」、「状語」と「補語」があります。それぞれが文の中で次の様な役割をしています。

**主語 (zhǔ yǔ) :** 「谓语」(述語)の示す動作・作用・属性などの主体を表す部分。日本語の主語に相当する。通常「主語」は名詞、名詞フレーズからなるが、数字と単位からなることもあり、動詞と動詞フレーズからなることもある。

**谓语 (wèi yǔ) :** 「主語」の動作・作用・属性などの行為を表す部分。日本語の述語に相当する。通常「谓语」は動詞からなるが、一定の条件の下では名詞と名詞フレーズからなることもある。

**宾语 (bīn yǔ) :** 「谓语」の動作の対象を表す部分。日本語の目的語に相当する。名詞からなるのが一般的だが、限定された動詞が「谓语」になる場合、動詞と動詞フレーズからなることもある。

**定语 (dìng yǔ) :** 「主語」・「宾语」などの中心語（被修飾語）の前に置かれ、中心語を修飾する語。日本語の連体修飾語に相当する。名詞、動詞などからなる。

使い方の例：A 的 B

例：英語的課本（英語の教科書）

A：名詞、動詞、その組合せなど。

B：修飾される名詞。

**状語 (zhuàng yǔ) :** 「谓语」などの中心語（被修飾語）の前に置かれ、中心語を修飾する語。日本語の連用修飾語に相当する。通常副詞、形容詞などからなる。

使い方の例：A 地 B

例：慢慢地走（ゆっくり歩く）

A：副詞、形容詞、その組合せなど。

B：修飾される動詞。

**補語 (bǔ yǔ) :** 「谓语」の後ろに置かれ、「谓语」の動作の結果、程度、傾向、数量、時間、所在、性状の程度を補足する語。

使い方の例：A 得 B

例：跑得快（走るのが速い）

A：動詞、その組合せなど。

B：動詞、形容詞、数量を表す詞。

注意が必要なのは、中国語と日本語は共に主語、述語と目的語を文の主要な構成としていますが、中国語の「主語」、「谓语」、「宾语」は日本語の主語、述語、目的語と比べて、上記に示したように少し範囲が広いことです。

上記の文成分を用いた構文の具体例を次のように示します。

jīn shǔ de nǐ ěr tǐ bèi pāo zhì dé hěn yuǎn  
金属的 拟饵体 被 抛掷 得很 远。(例文3)  
「定语」 「主語」 「谓语」 「補語」  
(金属製のルアーは、遠くまで投げられる。)

qí bù jiàn shàng xià zuǒ yòu yáo bǎi dì shè zhì zài nǐ ěr shàng  
鳍部件 上 下 左 右 摇摆 地 设置 在 拟饵 上。  
(例文4)  
「主語」 「状語」 「谓语」「補語」「宾语」  
(鳍部材は、上下左右に揺動するように、ルアーに配設される。)

「主語」、「谓语」、「宾语」の使い方はほぼ日本語の主語、述語、目的語に対応していますので、これらの勉強について説明を割愛します。「定语」、「状語」と「補語」の使い方を覚えるために、まず典型的な構文となる「的」、「地」、「得」で接続する「定语」、「状語」と「補語」の例文を最初の教材としました。これらの構文のその他の使い方、例えば「補語」の「混为一体」を「跑得快」のパターンで勉強すれば、比較的的理解されやすく感じました。

次に、特許明細書等を各部分に分けて、文章の特徴と勉強の仕方について紹介します。

### 3.1 権利要求書(特許請求の範囲)

特許請求の範囲において、定型な文書を用いることが一般的です。定型には独立請求項と従属請求項の2つのパターンがあります。具体例を以下に示します。

#### 3.1.1 独立請求項

「一种钓鱼用拟饵，其特征在于，具备外观形状为模仿鱼的拟饵体、和可摇摆地设置在上述拟饵体上的鳍部件」。(例文5)

日本語翻訳文：

「釣り用のルアーであって、魚を模倣した外観形状を有するルアー体と、前記ルアー体に揺動可能に配置された鳍部材を有することを特徴とする釣り用のルアー」。

#### 3.1.2 従属請求項

「根据权利要求1所述的拟饵，其特征在于，上述鳍部件为锡制」。(例文6)

日本語翻訳文：

「請求項1に記載のルアーにおいて、前記鳍部品は錫製であることを特徴とする釣り用のルアー」。

中国専利法実施細則第21条に規定によれば、請求項の記載は序文と特徴部分に分け、序文部分には従来技術の部分、特徴部分には本願発明の技術的特徴を記載するように要求されています。このような書き方はジェブソン・スタイルと呼ばれています。日本語で書くと「……において、……を特徴とする……」または「……であって、……を特徴とする……」のようになりますが、中国語では「一种……，其特征在干，……」のようになります。日本の特許審査では、「であって」または「において」の前後のどちらにも本願発明の技術的特徴を記載しても特に問題はありませんが、中国では序文の部分に書かれた構成は自ら従来技術と認めたこととみなされ、特徴的な構成として認めてもらえないこともあるようです。原文を忠実に表現する観点から、日本語訳文においても、「であって」または「において」のような区切りとなる用語は、序文の最後の部分に書くことが重要だと思えます。

### 3.2 技術領域(技術分野)

「本发明有关钓鱼用诱饵」。(例文7)

日本語翻訳文：

「本発明は釣り用ルアーに関する」。

「本发明涉及一种花木培养箱，具体地说，是一种立体花木培养箱」。(例文8)

日本語翻訳文：

「本発明は植物栽培箱に関するものであって、具体的には、

立体植物栽培箱である」。

技術分野の記載は日本語の明細書と同じように、例文7のように一文で構成されるか、または例文8のように「具体地说」で区切られた二つの文で構成されます。例文8のような前後二つ(複数)の文節で完全な意味が表される文を「複句」、各文節を「分句」と言い、間にある「具体地说」は独立成分と言います。

### 3.3 背景技術、発明的開示(従来技術・発明が解決しようとする課題、課題を解決するための手段)

この部分は発明の本質的な部分なので、明細書の文章も複雑になります。特許文献は、前節で述べたような複数の句点で区切られた文が多いのが特徴で、複数の「分句」から一つの「複句」を構成する構文が良く使われます。「複句」の構文は先ほど紹介した例文1と例文2を参照していただきたいと思います。特許明細書のこの部分には、ほかにもたくさんの構文が使用されます。全ての構文を例文にして紹介することができませんが、ここで、読解に役立つ、中国語に特有の構文の例の一つを紹介します。

「钓鱼的人将拟饵沉降到海里的鱼层进行垂钓」(例文9)

日本語の翻訳文：

「釣り人は海中の魚層までルアーを沈めて、釣りを行う」。

この例文9では、述語となる動詞が二つあります。中国語文法では「连谓語」と言います。これは中国語の動詞には英語のように不定形、分詞、動名詞のような表現がないためだと考えられます。このような文章を読む際、一方の動詞(例文9の場合は2番目の動詞の「进行垂钓」)を英語の不定形、分詞か動名詞とイメージしてみると文章が分かりやすくなると思います。

### 終わりに

以上、上級クラスと中級クラスがこの数年に中国特許文献について勉強した経験をまとめさせていただきました。このほか、初級クラスと初心者クラスの皆さんも一般的な文章の読解と会話でがんばっています。庁内にはまだ同好者がたくさんいると思いますが、残念ながら全ての方と勉強の体験をシェアすることはできません。私たちの経験談が、少しでも他の方々の参考になりましたら幸いです。

### おまけに

中国語特許文献読解の勉強をしながら、読解に役立つと思われる単語を集め、「拼音」のabc順に整理して辞書のよ

うにまとめました。文書の最後に添付します。どの技術領域で用いられる単語なのかが分かるように、単語の出所とする特許文献の国際特許分類の記号を併記しました。

参考文献

- 1) 西湖漫筆、現代中国散文選、宗璞、第70頁～第101頁、中国書店(2002)。
- 2) 中国語特許明細書を読む、書く、北京銀龍知識産権代理有限公司。
- 3) 現代汉语、黄伯荣、廖序东、甘肃人民出版社(1983)。

profile

林 靖 (はやし やすし)

平成 16年5月 特許庁入庁 (審査第一部 ナノ物理)  
平成 18年5月 審査官昇任

profile

北川 創 (きたがわ はじめ)

平成 10年4月 特許庁入庁 (審査第二部 計測)  
平成 14年4月 審査官昇任  
平成 25年7月 山口大学大学院 技術経営研究科

profile

松本 隆彦 (まつもと たかひこ)

平成 11年4月 特許庁入庁 (審査第二部 生物資源)  
平成 15年4月 審査官昇任 (審査第一部 自然資源)

profile

石村 恵美子 (いしむら えみこ)

平成 16年5月 特許庁入庁 (審査第一部 自然資源)  
平成 18年5月 審査官昇任

profile

松平 英 (まつひら ひで)

平成 13年4月 特許庁入庁 (審査第四部 情報記録)  
平成 17年4月 審査官昇任  
平成 21年4月 審査第四部 情報処理

附录 (付録) : 単語集

中国語	日本語	IPC
b. 【比重】(名) [bǐ zhòng]	比重	
【不同】(形) [bù tóng]	異なる	
c. 【垂钓】(動) [chuí diào]	釣り	A01K 85/00
【垂钓者】(名) [chuí diào zhě]	釣り人	A01K 85/00
d. 【底部】(名) [dǐ bù]	底部	
【地点】(名) [dì diǎn]	場所、地点	
【钓鱼】(動) [diào yú]	釣り	A01K 85/00
【叠加式】(形) [dié jiā shì]	積層型	
【多层】(形) [duō céng]	多層	
g. 【根据】(動、名) [gēn jù]	根拠とする、 によって、根拠	
【供水系統】(名) [gòng shuǐ xì tǒng]	給水システム	
h. 【和】(名、形、連、介) [hé]	と	
【会】(動、助動) [huì]	し得る、 可能、できる	
j. 【较】(介、副) [jiào]	比較的	
【金属】(名) [jīn shǔ]	金属	
【将】(介、副) [jiāng]	…を	
【进行】(動) [jìn xíng]	する	
【具备】(動) [jù bèi]	備える	
k. 【开设】(動) [kāi shè]	設ける、開ける	
【快速】(形) [kuài sù]	早く、迅速	
【可】(助動、副) [kě]	できる、可能	
m. 【目标鱼层】(名)	目標とする	A01K 85/00
[mù biāo yú céng]	魚の層	
【模仿】(動) [mó fǎng]	模倣	
n. 【内凹】(動) [nèi āo]	内側に凹む	
【内设】(動) [nèi shè]	内側に設ける	
【能够】(助動) [néng gòu]	できる、可能	
p. 【排水孔】(名) [pái shuǐ kǒng]	排水孔	
【抛投】(動) [pāo tóu]	投げる	

中国語	日本語	IPC
p. 【配设】(動) [pèi shè]	設置、配設	
q. 【鳍】(名) [qí]	鳍	A01K 85/00
s. 【疏水孔】(名) [shū shuǐ kǒng]	流水孔、注水孔	A01G 9/02
【使用】(動) [shǐ yòng]	使用	
t. 【透气】(動) [tōu qì]	通気、 空気を通す	A01G 9/02
w. 【为】(動、介) [wéi]	のような、 は、となる	
【外观】(名) [wài guān]	外観	
【外凸】(動) [wài tū]	外側に突出	
x. 【下沉】(動) [xià chén]	沈む	
【形状】(名) [xíng zhuàng]	形状	
y. 【一体式】(形) [yī tǐ shì]	一体型	
【有时】(副) [yǒu shí]	時によって、 時々	
【由于】(介) [yóu yú]	…のために	
【因而】(連) [yīn ér]	故に	
【远距离】(名) [yuǎn jù lí]	長距離	
【有利的】(形) [yǒu lì de]	有利である	
【摇动】(動) [yáo dòng]	揺動	
【鱼】(名) [yú]	魚	A01K 85/00
【于】(介) [yú]	…に	
【用】(動) [yòng]	使用する、 用いる	
【诱饵】(名) [yòu ěr]	ルアー	A01K 85/00
z. 【栽培容器】(名) [zāi péi róng qì]	植木容器	A01G 9/02
【种植槽】(名) [zhǒng zhí cáo]	定植槽	A01G 9/02
【周边】(名) [zhōu biān]	周辺	
【种植】(動) [zhǒng zhí]	植木	A01G 9/02
【作为】(動) [zuò wéi]	として	
【在】(動、副、介) [zài]	…における	